



# 社協の総合力とネットワークを活かし、福祉のコミュニティづくりを推進します

社会福祉法人京都市社会福祉協議会 会長 村井 信夫

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営並びに事業の推進に対しまして、格別の御理解と温かい御支援を賜り、心から深く感謝を申し上げます。本年も京都市域の社協活動と地域福祉の発展のため、より一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は、介護保険制度の改正や、社会福祉法人の地域公益取組を責務とする制度改革が実施され、社会福祉制度や施策が大きく変化する年となりました。また、社会的孤立や貧困等の問題の深刻化、災害の増加等、様々な分野において社協への期待がますます大きくなっています。

このような中、本会では、昨年4月から芳賀常務理事を迎えて、新たな役員体制のもと、「京都市地域支え合い活動創出事業」を京都市より受託し、コーディネーターを各區に配置して、地域で高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの開発や担い手づくりを進めるとともに、若年性認知症支援を目的とする「おれんじパートナー訪問事業」を公益的な取組として展開しています。

また、地域だけでは対応が難しい狭間の問題や、複合する

福祉課題等を抱える方への寄り添い支援に取り組む「地域あんしん支援員設置事業」を京都市から受託しており、今年度から全区に展開する等、行政や関係機関等と連携してセーフティネットの充実に努めています。

さらに、子どもの居場所づくり等の子育て支援の取組を地域に広げるとともに、災害時には災害ボランティアセンターを速やかに運営し、被災地支援に取り組んでいます。

本年は、さらなる社会福祉法の改正をはじめとする社会福祉制度の見直しが進められ、既存の制度では対象とならない生活課題や複合的な課題を抱える方を支える「地域共生社会」の実現に向けた取組が展開されようとしています。

本会では、今後とも、市民の皆様からの信頼に応えるため、京都市とのパートナーシップと、地域福祉の車の両輪である京都市民生児童委員連盟との連携のもと、本年が飛躍の年となりますよう引き続き役員が一体となって、「人に優しく、災害に強い、社協の総合力とネットワークを活かした福祉のコミュニティづくり」を進めてまいりますので、御支援並びに御協力をお願い申し上げます。

平成30年元旦

あけましておめでとうございます。

新年に当たり、皆様の御多幸を心からお祈りいたします。

社会福祉法人京都市社会福祉協議会におかれましては、「人に優しく、災害に強い、社協の総合力とネットワークを活かした福祉のコミュニティづくり」を基本目標に、地域福祉の推進に日々取り組んでいただいております。村井信夫会長をはじめとされる役員並びに会員の皆様の福祉に対する御熱意と多大な御尽力に、心から敬意を表します。

皆様の御支援をいただき、市長就任後10回目の新年を迎えました。この間、徹底した現地現場主義で八千近い市民活動や市政の最前線を訪れ、京都の今を見つめ、未来のためにまい進してまいりました。

「美しいまち京都が誇らしい」「まち歩きを安心して楽しめるようになりました」。多くの方からこうしたお声を頂く度、京都のまちが着実に深化してきたことを肌で感じ、嬉しく、御尽力の皆様には感謝しています。

そして迎えた本年。京都が最高の都市理念として掲げた世界文化自由都市宣言から40年です。「広く世界と文化的に交

わること」によって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」。この理想の実現を目指し、「文化」を基軸としたまちづくりを更に加速させる年がスタートしました！

文化庁が機能を強化し、2021年度に京都へ全面的に移転。これを大きな力に、子育て支援や教育・福祉、観光、景観、環境、中小企業の活性化、雇用の創出、安心安全など、あらゆる施策に文化で横串を通す。さらに、文化や地域活動に親しむ「京都ならではの働き方改革」でさらに一層の活力を生み、地方創生のモデルを示す。新年を迎え、決意を新たにしています。

そして本年は、明治維新から150年。都の地位を失い、都市存亡の危機を迎えていた京都を、全国初の小学校や芸大、工業高校の創設、琵琶湖疏水や市電の開業などで見事に復興させた先人たち。その志と偉業に学び、共に挑み続けられ、様々な課題を克服し、世界文化自由都市の理想を実現できる。私は確信しています。

「日本に、世界に、京都があつてよかった」と多くの方に実感していただけるよう、本年も共に全力を尽くします。



# 世界文化自由都市・京都の実現を目指して

京都市長 門川 大作